

## BERC 主催 経営倫理シンポジウム・2013 開催報告

開催日：2013年11月20日（水）14：15～17：30
会場：国際文化会館 岩崎小彌太記念ホール
参加者：シンポジウム：121名、懇親会：42名
テーマ：CSRの進化型としてのCSV最前線
参加費：BERC会員…無料、JABES・ACBEE会員…¥2,000、一般…¥10,000 懇親会：3,000円/一人

### 【スケジュール】

14:15-14:20	理事長挨拶 矢野 薫 経営倫理実践研究センター理事長
14:20-15:30	基調講演 『ネスレの共通価値の創造（CSV）戦略 - 社会の課題に対するネスレの取り組み』 村本 正昭氏（ネスレ日本株式会社 執行役員 パブリックアフェアーズ統括部長）
15:40-17:30	パネルディスカッション 『CSRの進化型としてのCSVの考え方と各社の取り組み状況』 パネリスト 津田 登氏（株式会社三菱ケミカルホールディングス取締役専務執行役員） 笹谷 秀光氏（株式会社伊藤園 取締役 CSR推進部長） 村本 正昭氏（ネスレ日本株式会社 執行役員 パブリックアフェアーズ統括部長） ファシリテータ 大久保 和孝氏（新日本有限責任監査法人 CSR推進部長）
17:45-19:30	懇親会

### 【開催報告】

経営倫理実践研究センター（BERC）は11月20日、「CSRの進化型としてのCSV（creative shared value）最前線」と題する「経営倫理シンポジウム・2013」を開催した。会場は東京都港区の国際文化会館岩崎小彌太記念ホール。

最初に今年度、BERC理事長に就任した矢野薫NEC会長があいさつ。「10年前の2003年にCSR元年といわれた。その後、日本企業は手探り状態から始まったが、この10年間でCSR活動を非常に活発に展開・強化してきたと思う。今まで日本企業が行ってきたCSRとCSVはどう違い、CSVの中では経営倫理がどう捉えられているか、興味をもたれるだろう」と述べた。



基調講演を行ったネスレ日本の村本正昭氏＝国際文化会館岩崎小彌太記念ホールで

基調講演は「ネスレの共通価値の創造（CSV）戦略・社会の課題に対するネスレの取り組み」と題し、ネスレ日本執行役員・パブリックアフェアーズ統括部長の村本正昭氏が行った。

同社は、乳幼児の死亡率改善のため、食品を開発・販売、またブラジル政府から余ったコーヒー豆の処分を依頼され、生まれたのが大ブランド・ネスカフェの始まり、という歴史を持つ。近年は、国連コンパクトで掲げられた人権、労働基準などの課題に積極的に取り組む。

同社の乳製品、コーヒーなどの食料品の製造工場は、必ず現地で原材料を調達しなければならない。そのため世界各地の開発が遅れている地域で、現地の行政と協働で工場を建設。インフラ整備、雇用確保、農民の生活向上、ひいてはネスレ製品の消費者を育てる、という、長いスパンで確かな成果を上げる同社独特の取り組みも紹介。

「企業の責任でやる従来型のCSRも大切だが、得られる企業価値には限りがある。一方、社会の問題を解決することを、事業のチャンスと捉えるのがCSV。それにより

画期的な製品、バリューチェーンの改善、地域経済の改善などが期待でき、企業にとっては競争力の向上や利益率の大きな改善などがもたらされる」と解説した。

「海外には、日本では想像もできない課題がある。日本も少子高齢化が深刻。それを企業と行政、NPO、NGO がうまく組み合わせ、一緒になって解決していく必要があるのでは」と語った。

後半のパネルディスカッションで、パネリストの三菱ケミカルホールディングス取締役専務執行役員・津田登氏は、同社が社会や地球レベルの心地よさという意味で考えた KAITEKI という言葉を目印に、それを経営指標にどう落とし込むかを模索。経営の新機軸(CSO)、経営学軸(CFO)、技術経緯軸(CTO)の3次元ベクトルで KAITEKI 価値を判断していることなどを紹介。

もう一人のパネリスト、伊藤園取締役 CSR 推進部長・笹谷秀光氏はまず ISO26000 を取り上げ、これに取り組む必要性、メリットを分かりやすく述べた。また CSV は、全ての組織に網羅的な CSR と違い、経営に特化している、と解説。さらに CSR の教育面である ESD (Education for Sustainable Development) に、同社が力を注いでいる、などと語った。



CSV をテーマとしたパネルディスカッション＝国際文化会館岩崎小彌太記念ホールで

その後、村本氏を加えた3人のパネリストが、ファシリテータの新日本有限責任監査法人 CSR 推進部長、大久保和孝氏の司会で、CSV のコンセプトをつくった経緯、誰に向けて取り組むべきか、などを話し合った。

大久保氏は「CSV の取り組みは、コンセプトがあつてのコンテンツ。きょう発表された 3 社は、取り組みを積み上げてコンセプトを明確化してきて、全くぶれがない。これから取り組む企業は、基本的な考え方を軸としながら、その企業に合ったものを模索していくとよい」とまとめた。

(BERC ニュース 56 号より抜粋)